

山下地区

山下地区別計画推進委員会

地域 西八朔町、北八朔町、小山町、青砥町

緑区の北側に、恩田川と鶴見川に挟まれた形で東西に長く位置し、地区の北西側は青葉区、北側は都筑区に隣接しています。市街化調整区域が多い田園地帯で、丘陵地に市営住宅や戸建の住宅が並んでいます。

山下地域交流センターや山下みどり台小学校コミュニティハウスが活動の拠点となっています。また、特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの福祉施設が多くあります。

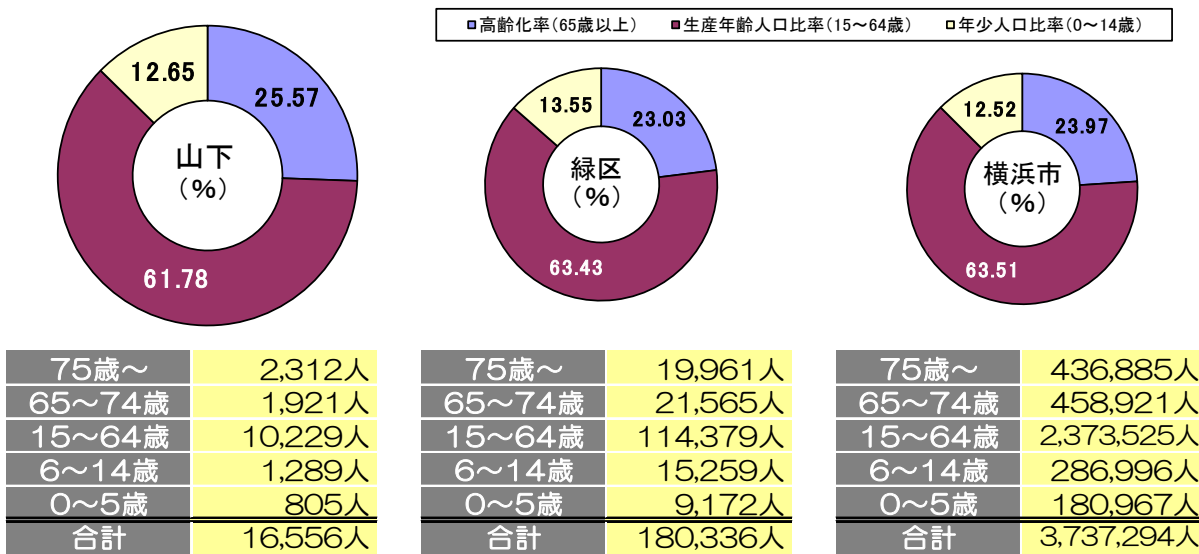
<主な関連施設>

最寄駅：中山駅（JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン）、青葉台駅、藤が丘駅（東急田園都市線）
 震災時避難場所（地域防災拠点）：山下小学校、山下みどり台小学校
 地域ケアプラザ等：横浜市中山地域ケアプラザ、地域包括支援センターふじ寿か園

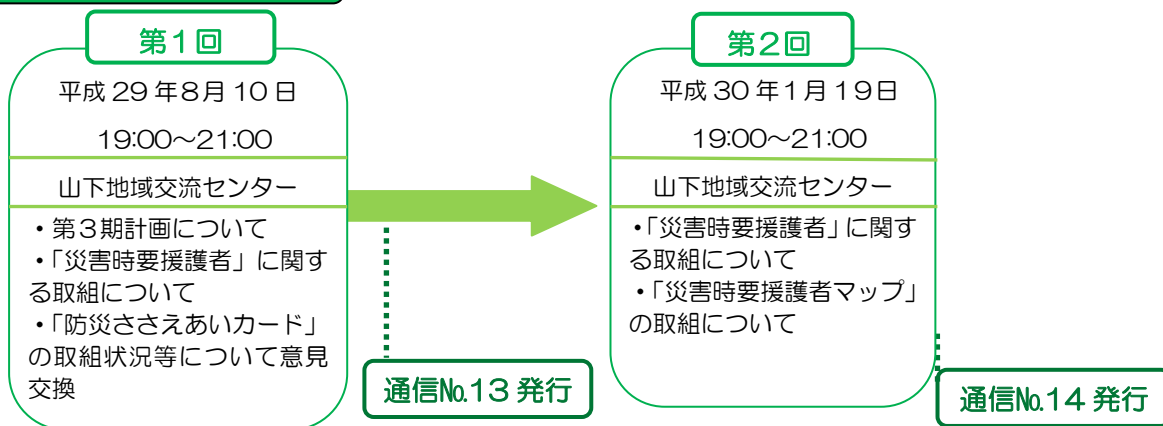
<年齢区分別人口>

平成29年(2017年)9月末

人口比



地区別計画推進委員会の開催状況



緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成29年度地区別計画推進状況



山下地区



「情報とネットワーク」で織りなす 私たちの安全・安心なまちづくり

より安全・安心なまちづくりを行うことは、私たち共通の願い。そのために、地域の防災と住民のふれあい・交流に向けた取組に力を入れていきます。

「防災ささえあいカード」 の活用を進めています！

防災ささえあいカードは、あらかじめ自治会ごとに要援護者を把握し、近隣の助け合いのもとに災害時の安否確認・避難誘導などを進めるための大切な情報源となります。

この情報を適正に収集・管理し、災害時の有効活用について、自治会ごとの取組の現状と課題を出して真剣に話し合いました。

その結果、集めた情報を災害時要援護者マップに落とし込むなどの見える化を行い、地域で助け合える環境づくりを推し進めていくことにしました。



(画像：防災ささえあいカード)

「山下ネットワークサロン」 の充実を図っています！

平成28年から山下地区独自の取組として、自治会に住民どうしの交流の場となるサロンを開設してきました。

そして、今やサロンは **13ヶ所** を数えるまでに増加。

これらをネットワークで結んで「山下ネットワークサロン」とし、必要な情報の交換と共有を図っています。

これにより、子供からお年寄りまで気軽に交流できることはもちろん、つながりを必要としている人へ手を差し伸べられるようになり、地域での見守りの輪が力強く広がることが期待できます。



(写真：イベントの様子)



(写真：3世代交流の様子)

山下地区別計画推進委員会



山下地区別計画推進委員会
平成29年9月発行 第3期No.3 (通算No.13)

山下地区別計画推進委員会通信

安全・安心のまちづくりへ

雨の降りしきる中、平成29年8月10日(木)19時から山下地域交流センターにおいて、平成29年度第1回「山下地区別計画推進委員会」を開催し、集まった委員との間で熱い盛り上がりを見せました。

28年度からスタートした第3期緑区地域福祉保健計画が2年目を迎え、「防犯・防災」で安全・安心のまちづくりを実現すべく、「防災ささえあいカード」の現状とあり方について、具体的な情報と活発な意見を取り交わしました。



第1回委員会の様子

ご存知ですか？

「みどりのわ・ささえあいプラン」山下地区別計画



「みどりのわ・ささえあいプラン」は、誰もが身近な地域で安心して暮らし続けられる緑区を目指していくために、区民、事務所、地域ケアプラザ、社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む計画です。緑区では11連合自治会ごとに「地区別計画」を策定・推進し、身近な地域の課題解決に向けて取り組んでいます。

山下地区別計画 3つの目標 を振り返ってみましょう！

目標1：地域での「つながり」を大切に、健康で元気に暮らし続けられるまちづくり

目標2：必要な「情報」が入手しやすいまちづくり

目標3：「防災・防犯」で安心・安全なまちづくり

区役所より『災害時要援護者に関する取組』について説明があり、その後『ささえあいカード』に関する山下地区の取組について意見交換しました！



詳細は裏面へ...

【平成29年度 山下地区別計画推進委員】(50音順 敬称略)

安部智恵、荒谷孝道、井上和子、小熊富美、口落合秀行、神谷幹雄、小柳新一、口五島忠八、
○篠崎 慧、澁井まどか、菅沼繁晴、鈴木洋夫、谷井春夫、仲原富士夫、中村忠治、成島昭吾、
濱野健次、平山千恵子、口舟木義一、堀内倭文子、吉浜行彦、渡邊 鉄 (○印：委員長、□印：新任)

防災ささえあいカードに関するこれまで取組について報告

今年度から山下地区別計画推進委員長に就任された篠崎連合会長より、防災ささえあいカードに関するこれまでの取組についてご報告いただきました！

- 山下地区内2か所の地域防災拠点である、山下みどり台小学校は平成19年度から、山下小学校は平成20年度から取り組み、平成25年度にはカードの様式を統一化しました。
- 平成28年度には自治会ごとにささえあいカードを更新！
- 地域防災拠点にてカード情報をリスト化したものを管理しています。



防災ささえあいカードとは・・・

要援護者の安否確認・情報伝達・救出援護・避難誘導が、近隣の助け合いのもとで円滑に進むように、あらかじめ該当世帯を把握するためのものです。

各自治会での取組について報告・意見交換

山下地区・自治会「防災ささえあいカード」			
【世帯主記入欄】		記入日：平成28年 月 日	
氏名 (フリガナ)		世帯人数	
住所	地区		
電話番号		携帯番号	
【災害時助けが必要な家族(世帯主を含む)】			
氏名 (フリガナ)	年齢以上の性別	該当する項目を選んで下さい。(複数選択可)	
生年月日：男・女		1.高齢ひとり暮らし 2.高齢二人暮らし 3.要介護・要支援 4.その他()	
氏名 (フリガナ)	年齢以上の性別	該当する項目を選んで下さい。(複数選択可)	
生年月日：男・女		1.高齢ひとり暮らし 2.高齢二人暮らし 3.要介護・要支援 4.その他()	
氏名 (フリガナ)	年齢以上の性別	該当する項目を選んで下さい。(複数選択可)	
生年月日：男・女		1.高齢ひとり暮らし 2.高齢二人暮らし 3.要介護・要支援 4.その他()	
氏名 (フリガナ)	年齢以上の性別	該当する項目を選んで下さい。(複数選択可)	
生年月日：男・女		1.高齢ひとり暮らし 2.高齢二人暮らし 3.要介護・要支援 4.その他()	
【緊急連絡先】 問題の方向性に緊急連絡先があれば、ご記入ください。			
関係	氏名 (フリガナ)	住所	電話番号

ささえあいカードを自治会会員名簿としても活用している。

ささえあいカードをリスト化したものを元に、要援護者の印をつけたマップを作っている。

外国人が多く、カードの目的や書き方を理解していないので、日本語以外のものも欲しい。

自治会長や民生委員らと話し合い優先順位をつけているが、実際に被災した際に優先順位通りに救助に行けるか疑問がある。。

ブロック長が自分の住んでいるエリアの住民については把握できるように、日常的に見守りをしていきたい。

今回の委員会で「安全・安心のまちづくりへ」の課題が明らかになりました！

- 各自治会におけるカード情報の共有方法の統一化
- 要援護者など、救助先の情報を把握し、具体的な支援の方法に結び付ける必要性
- 普段の関係や見守り活動の充実と、班単位にとどまらない助け合いが行えるネットワークづくり
 - 自治会未加入者の要援護者の把握
- ささえあいカードの外国語対応



今後も引き続き、防災に関する取組について検討していきます！
次回委員会は、冬頃の開催予定です。

<連絡先> 山下地区別計画推進委員会事務局
TEL：930-2260（緑区税務課内）



山下地区別計画推進委員会
平成30年2月発行 第3期No.4 (通算No.14)

山下地区別計画推進委員会通信

地域のささえあいを進める確かな歩み

平成30年1月19日(金)19時から、厳しい寒さの折、山下地域交流センターにおいて、平成29年度第2回「山下地区別計画推進委員会」を開催しました。外は冷たい風が吹いていましたが、会場は出席者の熱気に包まれました。



▲第2回委員会の様子

前回の委員会では、「安全・安心なまちづくり」を目指すため、「防災ささえあいカード」の現状とあり方について話し合いました。そこでいくつかの課題が明らかになりました。

今回の委員会では、これらの課題を受けて、

- ① 「防災ささえあいカード」の多言語化への取組
- ② 支援を必要とする人(要援護者)を把握するマップづくりの取組

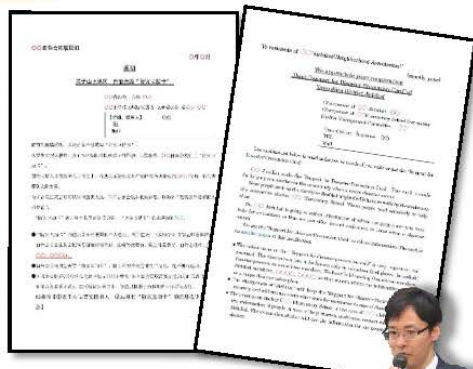
についての発表があり、出席者の中で熱心な話し合いが行われました。

それでは、話し合いの概要をご紹介します！



① 「防災ささえあいカード」の多言語化への取組 (区役所より)

現在、山下地区には約200人ほどの外国人の方が住んでいます。まずは、ボランティアさんの力を借りながら「防災ささえあいカード」の難しい表現を「やさしい日本語」に手直ししてから、英語と中国語の翻訳版を作成しました。この取組によって新たに生まれた“やさしい日本語”版は、外国人はもちろん高齢者や障がい者にとっても、とても分かりやすいものとなりました。このため、今後、「防災ささえあいカード」のいっそうの理解と広まりが期待できるものになったとの報告がありました。



みどりのわ・ささえ愛プラン
山下地区の目標はPR動画をご覧ください！(YouTube)



▲緑区福祉保健課 事業企画担当 植村係長

② 支援を必要とする人(要援護者)を把握するマップづくりの取組

●みどり合自治会(発表者:田中会長、河渕さん)

“地域の困り事・心配事”を見える化し、解決策について検討するために、「住民ささえあいマップ」を作成。しかも、要援護者の状況を色分けする工夫を凝らしたとの発表がありました。作成に当たっては、地域を良く知っている女性の力が頼りになったとのこと。今後は若手にも担い手になってもらえるよう、いろいろな場面で交流を図りながら、将来は地域に防災組織を作っていきたいとの考えが示されました。



▲田中会長



▲河渕さん

●北八朔上自治会(発表者:山下地区民生委員・児童委員協議会 澁井会長)

防災ささえあいカードを参考に、要援護者が多いエリアを中心に、「住民ささえあいマップ」を作成。地域の“世話焼きさん”4名に活躍していただく中で、意外と交流の薄い方もいることが分かり、ますます顔の見える関係づくりが大切と感じたとのこと。

これからは、マップのPRとエリアの拡大の両方を目指していきたいと、とても力強い言葉が聞かれました。



▲澁井会長

●北八朔自治会(発表者:菅沼会長)

まずは「住民ささえあいマップ」の勉強会を実施。その活動の過程で、民有地の関係で消火栓を設置することができず、しかも狭い道路のため消防車が入れないエリアを発見したとのエピソードがありました。

本年度は、その場所に簡易消火器具を設置し、訓練も行うとのこと、他の自治会にとっても参考となる事例を話してくださいました。



▲菅沼会長

●小山町自治会(発表者:篠崎会長)

高齢者一人暮らしなどの基準を設け、また、様々な情報を集めて防災ささえあいカードに優先順位を付けたとのこと。さらに、カードの情報を色分けしてマップに落とし込み、見える化を実施したとの発表がありました。その結果、要援護者が集中している地域では、顔の見える関係づくりをしながら、どう手を差し伸べていけば良いかという課題が見えてきたとのことでした。まさに、見える化によってもたらされた効果と言えるでしょう。



▲篠崎会長

[平成29年度 山下地区別計画推進委員 平成30年1月19日現在] (50音順 敬称略)

安部智恵、荒谷孝道、井上和子、小熊富美、口落合秀行、神谷幹雄、小柳新一、口五島忠八、
○篠崎 慧、澁井まどか、菅沼繁晴、口田中大成、谷井春夫、仲原富士夫、中村忠治、成島昭吾、
濱野健次、平山千恵子、口舟木義一、堀内優文子、吉浜行彦、渡邊 鉄 (○印:委員長、□印:新任)

<連絡先> 山下地区別計画推進委員会事務局 TEL: 930-2260 (緑区税務課内)